

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年2月28日

事業所名 児童発達支援センター 防府市なかよし園

	チェック項目	はい	いいえ	解答なし	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・規定では、適切となっていると思いますが、実際は狭いと思います。同じ部屋をその都度模様替えをしています。 ・プレイルームを衝立やロッカー等で仕切り療育のスペースがわかるように確保しています。 ・基準はOKだが、クールダウンできる空間を確保するように努めています。 ・3つのクラスをそれぞれ部屋を分けて活動するようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状ハード面の改善は難しいことが多いが建て替え時には現場の意見が反映されるように努めます。 ・棚やパーテーション等の位置を変え部屋を仕切り活動内容に応じて臨機応変に対応しています。 ・クールダウンできる空間を設置したり、1人用テント等を活用するよう努めます。
	2 職員の配置数は適切である	5	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員配置基準は満たしています。年休を取る時は現場職員が話し合って児童数に対して配置基準を満たすようにしています。 ・正規職員や嘱託職員が研修や病気等で休む時は非常勤職員の勤務調整をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターとしての役割を果たすために必要な職員数を確認していきます。 ・職員が定着するよう働きやすい職場環境を整えたり内部研修などの質を上げていきます。 ・現場の職員配置基準を考えながら職員同士が気持ちよく休みが取れるように協力し合う必要があります。 ・職員同士で確認して休みを調整し現場や訪問が回るよう努めています。 ・休みが重なり人数がギリギリになった時は活動内容の変更やクラスを合同にするなど工夫します。 ・活動を勧められる職員を増やしていきます。 ・パートも含めた協力体制を築きます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3クラスになり、集中しやすい人数に分けることができている。 ・集団にとっての構造化はできているが個人に対しては工夫が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境設定について学び、より分かりやすい構造化に努めます。 ・クラス全体で配慮し合います。

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3クラスに分かれて療育を受けられるように部屋を別にしています。 ・園内や園庭等は常に安全で清潔を保つように清掃や物の配置等を行っています。 ・温湿度計を設置し室内の室温管理を行ったり、空間除菌や換気を常に行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭や砂場での活動が有意義なものになるように必要に応じて遊具や砂等を補充するように努めます。 ・清潔安全な環境調整に努めます。 	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・パートの方には、会議録などを回覧したり必要に応じて口頭で伝えたりしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・半日で終わる行事の後に機会を設けるようにします。 ・支援方法が変わった時は全職員に伝えるために口頭だけでなく視覚的に分かるようにしていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		4		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見を反映させより良い支援に繋げていきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		4		<ul style="list-style-type: none"> ・引続き実施します。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	6	4		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13			<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修も活用し、研修の機会を多く取り入れています。内容をもう少し吟味して頂けると、研修時間がより有意義になる。 ・外部への研修にも参加しつつ、オンラインでの研修も受けている。 ・職員数が少ない中で、オンラインなどの研修を積極的に受けています。 ・支援向上のため、色々な内容の研修を受けています。 ・内部研修にオンラインを取り入れたり、障害者発達支援センターより講師を招いて現場に沿った研修を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き職員が専門性を高められるよう全職員に周知し研修を受け学べる環境を目指します。 ・オンラインやオンデマンドを活用し自己研鑽に努めています。今後は、職員の希望や意向を取り入れながら研修の内容も検討していきます。 ・各々が受けた研修のフィードバックを文章だけでなく方法で周知していきます。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・関係書類や保護者からの聴き取りを十分行いニーズを引き出すようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な分析にも配慮していきます。 ・複数職員で多方面から分析していきます。 	

11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	4	・アセスメントツールについては少しずつ取り入れていますが、職員全員が共通認識を持てるように研修に取り入れつつあります。	・研修で使用したアセスメント表を積極的に活用していきます。 ・研修のテーマに取り入れ職員全員が共通認識を持てるように努めていきます。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10		3		・今後も個々に応じた本人支援、家族支援、地域支援の内容を具体的に設定するように努めます。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9		3	・モニタリングを各担当が入力するようになり、より支援計画を意識して支援できていると思います。	利用児の状況に変化が生じたときは随時計画を見直し適切な支援ができるようにしていきます。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	2	3	・主担当に頼りきっていますが、当日、活動前に打合せを行っています。	・子どもたちが楽しめる活動内容にするために周知する段階で意見を出し合います。 ・時間の確保に努めます。 ・主担当に任せっきりになっている為立案者を分散することが必要と考えています。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		2	・個人の段階に合わせた、課題を設定しています。。	・集団性も大切にしているが個人の能力に合わせて活動を行い内容がマンネリ化しないよう工夫し立案します。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10		3		
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	2	3	・送迎や非常勤職員は時間差での出勤となり、細かいところまでの打ち合わせができない状況ですが可能な限り伝えるようにしています。	・園残りの職員が出勤された方に伝えたり、業務日誌などで確認します。 ・終礼で確認できるようにします。

18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	2	3	・終礼時に支援の振り返りを行い注意点等を共有するように努めています。	・終礼時に支援の質の向上のため振り返りを習慣化し必要事項について職員全員が共有するように努めます。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		4		・日々の支援内容を記録し、支援の方法の見直しを行ったり振り返りを行っています。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		4		
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	2	3		・主に児童発達支援管理責任者が出席していますが、今後は現場の状況を見ながら積極的に担当者が出席できるように努力します。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	2	4	・情報提供があった場合は、できるだけその後の経過や状況変化について伝えるようにしています。	・情報提供はありますが、その後の経過の聴き取りや情報確認等の連携が不十分な為、関係機関等と相互に情報共有に努め連携を図っていきます。
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1	6		・定期的な情報共有に努めます。
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2	6	・医療ケア開始時以降、特に変化が見られない為、定期的には連絡を取っていません。 ・医療的ケア児が受診される時に同席して主治医と直接話をし、指示書を書いていただき、受け取っています。	・必要に応じて保護者の了承を得たうえで主治医との連絡等を図っていきたく思います。
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		3		
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		3		

関係機関や

保護者との連携

27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1	4		
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	12		1	・頻度や対象園が限られていますが、ふれあい保育で近隣の認定こども園等の児童との交流を毎年実施しています。	・回数を増やしていきます。 ・対象園を増やすことに努めます。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10		3	・子ども発達支援部会、研修部会、要対協の会議、研修などへ積極的に参加しています。	・引き続き積極的に参加していきます。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11		2		・送迎時や連絡帳、電話などで支援方針や課題など共通理解を深めています。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	4	2	・相談会の機会は設けている。 ・ペアレントトレーニングは行っていないが、ペアレントメンター相談会を開催し保護者への支援を行っています。	・「ペアレントメンター」など保護者同士の関わりが増えるように啓発を行っています。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10		3		
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		3		
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	1	3		・安心して子育てができるように相談に応じていきます。

保護者への説明責任等

35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	2	2	・父母の会や保護者会はないので、保護者参加の行事や茶話会により保護者同士の交流の場を設けています。	・保護者が交流できる場や機会を増やしていきます。
36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11		2	・保護者からの相談や申し入れなどがあった場合は、迅速に対応しています。	・今後も迅速かつ適切に対応できるように常に努力していきます。
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11		2	・毎月、園だよりを発行して行事予定や活動状況、必要な情報等をお知らせしています。	・今後も継続していきます。
38	個人情報の取扱いに十分注意している	12		1	・個人情報に関する書類などの持ち出しを禁止しています。 ・個人情報についての連絡は、携帯電話やメールを利用せず固定電話を利用しています。	・個人情報の取り扱いについては細心の注意を図るとともに職員全員に徹底していきます。
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12		1	・絵カードを利用して1日のスケジュールを説明したり、保護者には連絡帳等で情報伝達に努めています。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	4	3		・当事業所の行事では地域住民を招待するような企画がありませんが、法人内施設での行事には地域住民の招待をし職員も参加しています。
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10		3	・防犯については、不審者侵入を想定した避難訓練を年2回実施しています。	・保護者への周知を十分行い訓練等への協力を得て実施するように努めます。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12		1	・土砂災害、地震に対して年2回ずつ避難訓練を実施しています。	・訓練の内容がマンネリ化しないように計画実施していきます。

非常時等の対応

43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12		1		
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11		2	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーの児への調査を行ったり、医師の指示書を提示してもらっています。又、毎月給食献立の内容を保護者に確認してもらい書類を提出してもらっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんのアレルギーの状況によっては必要に応じて最新の医師の指示書を提出して頂くようにします。
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12		1	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットがあれば終礼で報告し、回覧は後文書でしているが。 ・ヒヤリハット事例集は作成していないが、ヒヤリハット報告書にて検討し、職員間で供覧している。 ・終礼時、ヒヤリハットを報告してもらい、検討を行ない共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例集を作成し、全職員に周知できるようにします。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11		2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月必ず内部研修に取り入れ意識強化に繋がっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の中に必ず毎月取り入れるように計画します。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		4	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面に関してはスタッフの努力によって実施されており、評価出来ると思います。 ・契約時に説明したり、必要に応じて説明するように努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に説明し改善案など話し合いを進めていきます。 ・身体拘束の適正化指針を定期的に読み合わせ、保護者への説明ができるように常に意識付けをしていきます。